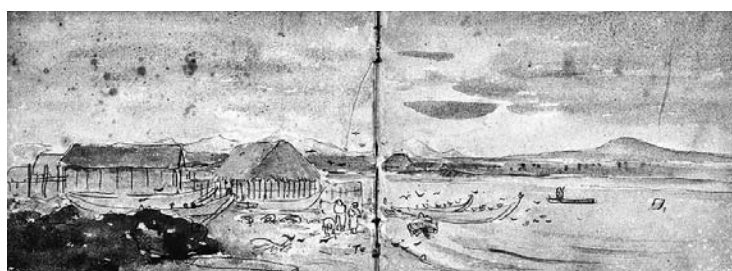


明治時代のスケッチブック

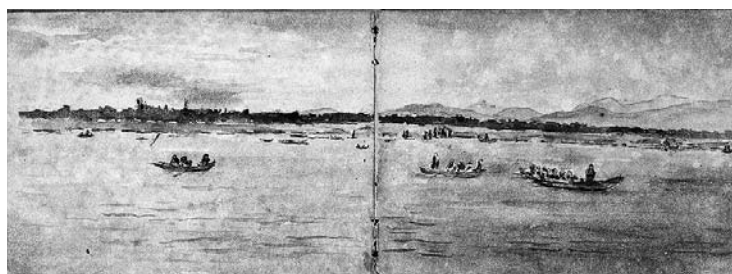
ここ数年、明治初期（明治2年（15年）の石狩を描いた絵画を調べてきました。そのほとんどは、墨で描かれた日本画なのですが、ただひとつ西洋画がありました。それが、正田敬蔵のスケッチブックです（写真3点とも）。

石狩の風景や漁業の様子絵が

5点ほどありますが、いずれも水彩や線描といった西洋画の技法で描かれています。このころ、西洋画の技法は日本に伝わったばかりで、水彩で描かれた明治初期の風景画は、石狩どころか北海道全体でもほとんど残っていません。作者の正田は、日本で最初の西洋画教育機関だった工部美術学校の二期生です。この学校の教師はすべてイタリア人で、正田はファンタネージという教師に師事しました。同門の画家には「鮭」で有名な高橋由一



石狩川左岸のサケ漁



石狩浜から出漁する漁船



地びき網を引き上げているところ

や日本人で初めてフランスのサロンに入選した五姓田義松がいます。このスケッチブックは、石狩の歴史史料というだけでなく、日本の絵画史からも非常に貴重なものです。いしかり砂丘の風資料館では、これから明治初期の石狩を描いた絵画を集め、テーマ展「絵画に見る明治初期の石狩」を開催します。

治初期の石狩」を10月19日（月）まで開催しています。テーマ展では、正田のスケッチブックのほか、初公開となる船越長善の明治7年前後の墨絵など、いずれも通常は公開されていない資料を展示しています。これを機会にぜひご覧ください。（工藤義衛）

テーマ展「絵画に見る明治初期の石狩」

■日 時／9月18日（金）～10月19日（月） 9:30～17:00 ※火曜休館

■入 館 料／大人300円（小中学生は無料）

■場所・問合せ／いしかり砂丘の風資料館（弁天町30-4）

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館

☎62-3711

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp